

牛久：学校周辺に見る自然

第5号 ひたち野うしく小、中根小

2010年5月13日発行

＜ノゲシ、オニノゲシ、ナガミヒナゲシ＞

だいぶ日にちがたってしまいましたが、中根小4年生、ひたち野うしく小3年生の春の観察の続きです。今回は、名前に「ケシ」がつく雑草の紹介。

①ノゲシ（キク科）



「ケシ」といってもケシ科の仲間ではなく、キク科の仲間。「花を見てみよう。何に似ている？」と聞いたら、迷うことなく「タンポポ！」と答えていましたね。名前にだまされることなく、目の前の事実からの判断が素晴らしいです。しばらくして、アブラムシがたくさんつくようになりました。冬の間は、タンポポのように地べたに葉を広げています（こういうのをロゼットといいます）。

②オニノゲシ（キク科：ヨーロッパ原産）



上のノゲシと比べると、葉のふちがトゲトゲしていて強そうですね。それで「オニ」がついたようです。でも花を包んでいる鱗のような葉をみると、ノゲシよりもトゲが少なく弱々しくみえるのですよ。一見、こわそうな人にもそんな一面があるのかもしれませんが、もともとはヨーロッパの雑草でしたが、いまでは世界中に広がっているそうです。

③ナガミヒナゲシ（ケシ科：地中海地方原産）



今度は正真正銘、ケシ科の仲間です。地中海原産ですが、今ではアメリカやアジアにも広がっているようです。果実が長いので「長実ヒナゲシ」。環境によって植物体や果実の大きさがずいぶんと変わりますが、小さくてもちゃんと花を咲かせます。日本でもぐんぐん分布を広げ、道路沿いに並ぶように花を咲かせているのをよく見かけるようになりました。 【理科支援員・宮内】